



みどりのきずな

令和6年4月発行 第41号

編集: 緑区支え合いのまち推進協議会広報部会 発行: 緑区支え合いのまち推進協議会事務局 緑保健福祉センター内

TEL:043(292)8185 FAX:043(293)8284

ふれあい食事会を再開して思うこと

緑区支え合いのまち推進協議会 委員長 岡本 博幸

社会福祉協議会地区部会では、高齢者を対象に会食会や食事の配達を通じて、温かな食事、食生活の改善と心のふれあいを目的に「ふれあい食事サービス」を実施しており、椎名地区部会では、コロナ禍で休止していた「ふれあい食事会」を令和5年11月から再開しました。

月1回の「ふれあい食事会」は楽しいひとときです。顔が見えるから、声が弾むから、何といっても話し合いがあるから楽しいのです。

話には、その人の人間性が表れています。顔、目、口元の表情に何とも言えないその人らしい生活の匂いが滲み出ています。喜び、哀しみ、楽しみ、幸せ、望みなどが見えてきます。人はたくさんの思いを込めて生きているからです。

話し合うということは単なる言葉の交換ではありません。心のキャッチボールなのです。心のひだを交換させることによって、その人から生きる種子をいただき、自分の心の中でその種子を育て、人間としての生き方を育んでいくことと思っています。話し合いとは、人が人として生きるための糧なのでしょう。

話すことが苦手な人もたくさんいますが、その人たちの心を開いてもらうことも大切なことと思っています。「参加してよかった。次が楽しみだ。」という気持ちを育てていきたいと思っています。

その鍵を握っているのが主催者の手腕でしょう。私は、そんな思いをもって参加し、食事会のひとときを楽しみにしています。テーマを決めることは難しいことですが、人間関係が希薄になっている今日、「向こう三軒両隣」の心を育てていく「ふれあい食事会」でありたいと考え、努力していきたいと思っています。

中間見直しを行い「具体的な取組み」を策定いたしました！

緑区支え合いのまち推進協議会

この度、令和4年度に策定した「第5期緑区支え合いのまち推進計画（令和4～8年度）」の中間見直しを行い、コロナの影響で未策定であった「具体的な取組み」を策定いたしました。この「具体的な取組み」は、各団体の皆様が地域活動をするうえで、共通となる中長期の活動目標をまとめたものとなっています。

今回の見直しでは、第4期計画で31項目あった取組項目について、類似項目の統合等を行い、20項目にスリム化いたしました。このことにより、これまで項目が細分化され過ぎていて、どの項目の実績に反映させればよいか分からない活動について、より適切に反映できるようになります。

令和6年度からは、策定された「具体的な取組み」に基づき、各団体において単年度の計画を作成してもらい、地域活動の推進に努めていただくこととなります。

「緑区支え合いのまち推進協議会」では、今後も、各構成団体が、お互いの活動状況等について情報共有し、団体間の関係構築を図ること等により、地域活動の推進を支援してまいります。

問い合わせ 緑保健福祉センター高齢障害支援課 TEL043-292-8138 FAX043-292-8276

社会福祉協議会緑区事務所

Email koreishogai.MID@city.chiba.lg.jp

TEL043-292-8185 FAX043-293-8284

Email midori@chiba-shakyo.jp

おゆみ野地区

まるゆるフェスの開催

令和5年11月26日、鎌取コミュニティセンターで地域初の試み「まるゆるフェス」を開催しました。緑区で音楽あふれる街を目指す「まちカフェライブ」と、誰でも暮らしやすいウェルビーイングを目指す「金平糖」の共催です。

まるゆるフェスは『体験する』と『体や心のケアを知る』のブース、『音楽を楽しむ』ミニミニライブという三つのテーマがありました。みんなの可能性を広げる視線入力体験、植物の香りに癒されるミニスワッグ作り、ケアグッズや布絵本の展示、おとなも子どもも楽しめるグッドトイ、亡くなった新生児を抱っこできるまゆのゆりかご、フットケア、ハンドマッサージなどの体験や展示と共に、グランドピアノを活かしたパワーあふれる音楽、優しい音色の様々な楽器、一緒に口ずさむ歌が交互に披露されて、車椅子の子どもたちが小躍りする姿が印象的でした。会場を訪れた人たちも「こんなケアがあったんだ！」と知り、互いにつながり、元気が出たことでしょう。



誉田地区

地域ボランティアと施設におけるSDGs活動(ときわ園)

緑区平川町にある特別養護老人ホームときわ園では、SDGs活動の一環として可燃ごみの削減に取り組んでいます。

具体的には、施設の厨房から出る食材の残滓を、敷地の一角に配置したコンポスト群により堆肥にかえるという工程を職員連携で実施しています。

まず、厨房職員が廃棄食材からコンポスト向きのものを選別します。それを用務職員が、園庭のコンポストに投入します。この作業工程を、月曜から土曜まで繰り返します。日曜日の分は月曜日にまとめて投入します。時折、堆肥を取り出して別の場所に移し替えたり、コンポストの位置を換えたりといった作業も行います。

ごみ処分場に回る可燃ごみの量を減らし、逆に園庭の植生のために土壌を肥沃にすることができるのです。四季折々の花が咲くための、また庭の一部に設けた畑の作物が豊かに実るための助けとなっています。

こうした有用なコンポスト群はしかし、さすがに見栄えとしては最上とはいいがたいものがあります。また、夜間に野生生物が侵入し、土を掘り起こし、悪臭が漂うといった事態が生じてしまいました。

ここに園庭ボランティアの方々のご提案で、竹製の囲いを作成することになりました。竹はやはり施設の園庭の一角から切り出しました。それら切り出した竹を、選定し、半分に縦割り、寸法調整を経て、四隅に建てた支柱に取り付けていきます。こうして、素敵な竹囲いは完成します。

小さな取り組みですが、地域ボランティアの皆さんとの協働を通じて、循環型社会の実現に一役立てればと願っています。



土 気 地 区

「我が家の防災対策」ボランティア研修会開催

令和5年9月17日 千葉市防災対策課須崎課長補佐をお招きし「我が家の防災対策」という演題で研修会を開催しました。関東大震災から100年、いつ大地震が発生しても不思議ではない今、ボランティアの皆さんは真剣に話に集中していました。災害に対する心構えを一人一人が強く意識できた研修会になりました。落ち着いて命を守る行動をとることが何より大切であるということ学びました。

第15回昭和の森ウォークラリーの開催

令和5年11月23日 千葉市昭和の森において第15回昭和の森ウォークラリーを土気地区スポーツ振興会、土気地区町内自治会連絡協議会との共催で開催しました。

新型コロナウイルス流行のため2回中止になり、去年は悪天候で開催を見送ったこともあり、実に3年ぶりの実施となりました。当日は天候にも恵まれ、久しぶりの開催であったにもかかわらず100名を超える参加者がありました。家族で、近所の方と一緒に、子どもだけのグループ等幅広い参加があり、地域住民の交流を広めるという目標を達成できたように思います。各ポイントでは、ゲームを行い土気地区や地区部会に関するクイズを解きながら楽しく回っていました。今回もまた、多くのボランティアの方の支援があって成功裏に終えることができました。



椎 名 地 区

健康教室の開催(認知症予防体操で認知症を防ごう)

令和5年度、社会福祉協議会椎名地区部会では、高齢者の運動不足解消と認知症の予防対策として、関係団体の皆様と連携し、各町内会の集会所で体操教室を開催しました。

参加者の多くは70代女性で、皆さん膝や腰に不調が見られるなど、健康に不安を抱えている方が多いことがわかりました。

当日のスケジュールは、初めに参加者に簡単な健康調査を実施した後、第1部「認知症の種類などの説明」、第2部健康体操「①ひざの関節を柔らかにする運動。②認知症を防ぐ運動」を行いました。

そして、参加者同士の意見交換では、参加者から「歩いていると躓く、睡眠不足、外出が少ない」など、皆さんが普段気にかけている事柄で話が盛り上がりました。

最後に、専門職の方から健康増進に係るアドバイスをいただき、参加した皆さんから、専門職の方や同世代との交流で健康に対する取り組みのイメージができた大変好評をいただきました。

近年、コロナ禍で地域の行事も中止・縮小され、外に出る機会が減っていた中で、今回の体操教室の開催は、単に健康づくりだけでなく、地域住民同士が顔を合わせるきっかけづくりになったのではないのでしょうか。

今後も、このような取り組みを通して、さらに地域の住民同士の絆が深まればと考えています。

※関係団体

ななゆめの里（古市場・小規模介護施設運営）、
あんしんケアセンター鎌取、社会福祉協議会、町内会等



平山地区

令和5年度の平山地区部会の活動

第2回 定例総会の様子

平山地区部会は、令和5年5月27日に2年目を迎えました。

設立してから、初めて顔合わせをすることができ、対面式で定期総会を行いました。

◆平山地区の5つの専門部会の活動を紹介します◆

1. 高齢者福祉委員会

【シニアクラブを開いたり、平山いきいきサロンで太鼓の達人(eスポーツ)をしたり、企画・募集・運営と少しずつ活動が広がっています。】

2. 母子福祉委員会

【子育てサロンは、最初は参加人数が少なかったのですが、おゆみ野地区の見学をしたり、ちらしを製作して各場所に置くなどした結果、関心を持つ母子による参加が増え、楽しく活動できるようになりました。】

3. 福祉ネットワーク委員会

【地区内のイベントやニュースを集めて、福祉ネットワーク新聞の4号を発行することができました。今後は、親しみやすい新聞の名称へ変更、各イベントなどに取材に行き、ニュースを届けていきたいです。】

4. ボランティア委員会

【各町内会(平山・平山第一・鎌取・辺田など)が見守り活動を中心に活動しています。また、ボランティア的な活動も取り入れていく予定です。】

5. 障がい者福祉委員会

【障がい者施設へ慰問品を贈呈する活動をしました。これから、行事やイベントへの参加など、少しずつ交流を増やしていけると良いと思います。】



ふくしトピックス

委員からの一言 (千葉市身体障害者連合会 廣田 健次)

皆さんは駅の改札口や、ホームとコンコースをつなぐ階段付近で、チャイムの音や鳥のさえずりが、一定の間隔で流されている事をご存じでしょうか。

これは、目の不自由な利用者に、改札口や階段の位置を知らせるために流されているもので「盲導鈴」(もうどうれい)と呼ばれています。

緑区内のJR各駅でも、改札口ではチャイム音、駅ホームの階段付近では「キビタキ」のさえずりが、スピーカーから聞こえてきます。

目の不自由な人たちにとって、駅構内は危険がいっぱい。

特にホーム上は「欄干の無い橋」に例えられるほどです。

そんな環境の中で、盲導鈴に寄る音サインは、とても大きな安心感を与えてくれる、貴重な存在なのです。

皆さんも、駅で白杖を使ったり盲導犬を連れていたりして歩いている、目の不自由な人を見かけたら、出来るだけ見守り、危険を感じたら「危ない!」と声をかけていただけたらありがたいです。よろしく願いいたします。

編集後記

最初から関わってる「みどりのきずな」第41号になりました。多くの方に読んでいただきたいと思います。そして、視線入力・・・に興味を持っていただけたらなと感じます。(T・T)